

スウェーデン内外事情

山下 彰 司*

1994年2月12日 日・ス国際共同研究でスウェーデンに行くことになった我々一行（吉井環境研究室長、渡邊河川研究室副室長、山下河川研究室主任研究員、加治河川研究室研究員および崇田河川研究室員）は成田空港にて出国手続きを済ませ、出発の時刻を待っていた。この日は25年ぶりの大雪が降った日である。案の定我々の出発便は翌日の出発となり、日本にいてはいけない日本人の私たちは仮入国のパスを渡され夜中の9時過ぎまで空港で待たされた挙げ句、その日は茨城県の鹿島のホテルに泊まることになった（夜中の12時について翌日の8時に空港に向けて出発というスケジュール）。

この様なトラブルに見舞われ、この旅のゆく末が案じられたが、翌日のフライトは順調であり、我々は無事ルレオまでたどりつくことができた。以下はこの後1カ月ルレオに滞在することになった私のスウェーデン記である。

スウェーデンは王国であり、主要言語はスウェーデン語である（スウェーデン語でスウェーデンはスベリシュと言う）。その面積は日本の1.2倍で、人口が800万人程度の国で、高緯度（特にルレオは北緯66°近く）に位置しほと

んど北極圏である。気候は厳しく冬のはじめは9月の下旬、雪が解けて春になるのは5月である。今年は3月なのに-24℃という日もあった。

産業は森林などの木材および加工品のほかVOLVO、SAABの自動車産業等である。基本エネルギーの電力は原子力発電が50%、水力発電が50%でまかなっている。人口が800万人しかいないため電力は余裕があるようである。日本ならば15倍の人が住んでいるので、エネルギー消費量も単純にスウェーデンの15倍程度必要になるだろう。

スウェーデンについて日本人が思い浮かべることは1つに中立政策をとっている国であること、2つに高い生活水準であること、3つにフリーセックスの国であることだろう。まず、中立政策については、この国は武装中立政策をとっている。そのため、兵役のようなものがあり、18歳以上の成人は3週間程度の軍事訓練を受けるらしい（これを彼らは英語でミリタリーサービスと言っている）。また、ハイウェイの所々は幅が広がっており、軍用機の滑走路に転用できるようになっている。もちろんこれらは専守防衛のためである。なお、現在EU（欧州連合）への参加を検討しており、将来中立国でなくなる可能性がある。

2番目に高い生活水準についてである。スウェーデンの具体的な福祉政策については、みることができなかったが、それでもどこに行っても身体障害者に配慮した建物の設計がなされており、また、学校も小学校から大学まで学費がただとかいうことからかかみることができる。しかし、これらを維持するためには一般の人で直接税率（所得税等）で30～50%を負担し、

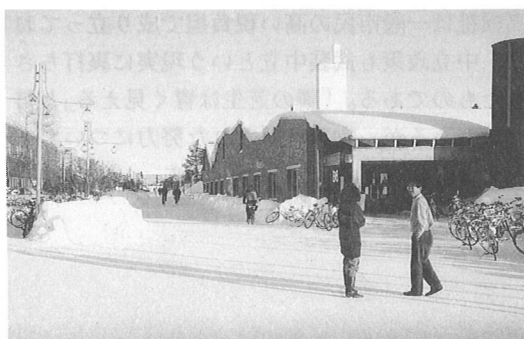


写真-1 ルレオ工科大学構内

*河川研究室主任研究員

間接税率（消費税・酒税等）が12～20%と日本の消費税の3%の比でない税負担を行っている。ちなみに間接税はインボイス方式をとっており、日本の様な益税は全く生じない。

また、一般的生活についてだが物価は日本並である。町中にはデパートやスーパーマーケットがあり、日本のように年中無休と言う店は見かけないが土曜日までは開いており、そこそこ便利である。スーパーマーケットには醤油やインスタントラーメン（出前一丁）があり、私をうれしくさせてくれた。最近のスウェーデン人はいろいろな国の食物を自分達のフィールド（米も長粒種だが、一般の料理でよく使われている）に取込んでいる。特に、タイ料理や中華料理のレストランは必ずどこでもみかけることができる（高いけど）。TVなどではタイのコマーシャルが流れていて、北欧の人たちの南国タイに対するあこがれが見て取れる。また、スウェーデン人は木花が大好きである。通りを歩いていると、通りに面した窓には木や花がおいてあるのをよく見かける。一度招待された家では、盆栽についてのウンチクを逆に受けてしまったくらいである。これなども短い夏に対する想いが現れていると思われる。

3番目にフリーセックスについてであるが、言葉のイメージのようにポルノ雑誌やビデオがいたるところに氾濫していると言うことはない。普通に町をあるいていても、そのようなものにはお目にかかれない。TVなどもチェックが厳しく、良質番組だけ流すように統制されている。そういう点で日本の方が無制限に野放しである。ただし、スウェーデン人の家族意識は日本人とかなりかけ離れている。一般に女の人にもいろいろな職業（バス運転手なども半分くらい女性）についており、男女間の関係は、はじめじめしたところがないようで、好きになったら一緒に生活して、そりが合わなくなったらあっさり別れると言う感じである。要するに現在好



写真-2 ルレオ工科大学で私に与えられた部屋(みんな専用の個室をもっている。このほかにティータイムに集まって雑談ができる談話室がある。)

きな人と一緒に生活するということが基本であるようだ。だから、結婚していなくてもボーイフレンド・ガールフレンド（外国ではこういうただの友達関係でないことを指す）と同棲していて、子供もつくり（結婚していない人が子供を持っても不思議でない国である）、共同で育てていく。日本の亭主関白のように、子供のことをすべて妻に押しつけると、あっさりサヨナラされる。しかし、スウェーデン人は親孝行でもある。また、1年に6週間程度の休暇を得ることができ、そのときには両親のもとに里帰りしたり、両親と一緒に旅行したりする。

スウェーデンは、日本の将来めざす理想国家と考えられたこともある。しかし、最近では、日本同様不景気であり、近年、大学を卒業した学生もなかなか職が得られない状況である。また、高福祉は一般市民の高い税負担で成り立っており、中立政策も武装中立という現実裏打ちされたものである。「隣の芝生は青く見える」と言う諺もあるが、物事は隠された努力についても考える必要がある。